



みんなの力でみんなの幸せを

s a w a r a b i

さわらび

12

December
2008
vol.428

医学講話 ▶ 消えたノーベル医学・生理学賞第一号

老人保健施設ジュゲム施設長 金井 芳之
(東京大学 助教授)

特 集 ▶ さわらび会の2008年を振り返る



消えたノーベル

医学・生理学賞第一号



ジューゲム施設長
東京大学元助教授
日本リウマチ学会
評議員・指導医
金井 芳之

はじめに

去る十月、4人の日本人（一人は現在米国国籍）がノーベル賞を受賞したことで、このところの社会状況が低迷していた日本に、一条の希望の光が走った。注目すべきことは受賞の対象になった研究成果が受賞に至るまで約40年の風雪を経たということである。研究の世界も意外に保守的で、常識にそぐわない新発見が出現した場合、それを歓迎するよりもむしろ否定しようとする傾向がある。その中であって、新発見または理論に興味を抱き追試験をしたり、それを進展してくれるグループの出現

もみられる。それによって当初の発見の重要性の裏付けや、関連発見がある。その良い例が「蛍光蛋白質の発見とその応用」で今回のノーベル賞に浴した下村博上である。蛍光蛋白質の発光機序や分子生物学への応用と、その評価はむしろ後続研究グループの研究に負うところが大きい。

ノーベル賞の対象になった最初の研究業績から、ノーベル賞と評価されるまでに掛かった年月を日本人に例を取ってみると、1987年、「免疫グロブリン可変部の遺伝子組み換え機構」で受賞した利根川博上が約10年、2001年受賞の野依博上の「不斉合成のための触媒分子」が約20年、利根川博士のケースは例外で、いずれも受賞までには大変な時間が掛かっている。

一方、ノーベル賞級の業績を残しながら、受賞を逸したり、また他人の手に渡ってしまう例もある。そういう例が日本人だけでも2〜3名はいたかも知れない。受賞には時代背景や「運」も大きく関わってくるのだ。

今回は温故知新、日本人とノーベル賞について、私となじみのある事象を気ままに綴ってみた。

消えたノーベル賞日本人第一号

今から百年ほど前の日本の医学界では、最も優れた医学徒は細菌学に

終結した。その一人に北里柴三郎がいた。東京医学校（東京大学医学部の前身）を通例の二倍かけて修了した北里は、先見の明あってドイツのコッホ研究所に留学、ペーリング博士との共同研究の機会を得た。そのころ致死病であった破傷風の研究で、破傷風菌の神経毒素を抑える、所謂抗毒素の産生に成功した。これが現在の「抗体」の起源である。

その意味では、前述の1987年、「免疫グロブリン可変部の遺伝子組み換え機構」でノーベル賞を受賞し

た利根川博士を合わせると、抗体分子の研究では、日本人が百年の最初と最後を飾ったことになる。偉大な業績である。

少し横道にそれたが、ペーリングは抗毒素の研究で1901年、第一回ノーベル医学賞を受賞した。本来は北里とペーリングが共同で受賞する筈であったが、東京医学校の細菌学の権威らの反発で北里の受賞を妨害したと聞いている。今から見れば実に皮肉な話である。

脚気とビタミンB1

北里がノーベル賞から外された理由は、おおまか次のようなものである。19世紀の終わり頃、脚気（かっけ）が蔓延し、多くの兵士が脚気に罹り、兵力が低下した。そのため、その病因説明が国家的急務であった。前述の東京医学校の細菌学の権威らは細菌説を提唱し、兵舎などの衛生管理を強化した。一方、民間上がり

の高木兼寛（海軍軍医総監で東京慈恵会医科大学学祖）は食餌説を提唱

した。高木は「脚気は食餌不足による」と主張し、民間上がり

の高木兼寛（海軍軍医総監で東京慈恵会医科大学学祖）は食餌説を提唱



した。それを証明すべく高木は二隻の海軍練習船に、一方は日本食、他方は西洋食を積んで遠洋航海を実践した。その結果、西洋食を積んだ練習船からの脚気の発症は皆無であった。北里は高木の食餌説を支持した為、東京医学校の権威側から強い反感をかった。これがノーベル賞から北里が排除された所以と言われている。なお高木の遠洋航海の結果はその詳細が「Lancet」に掲載されている。その後、鈴木梅太郎によって米糠から抗脚気因子が単離され、オリザニンと命名された。これが現在のビタミンB₁である。ビタミンB₁₂の化学構造の研究では、ドイツのウィンド

ウスが1928年にノーベル化学賞を受賞したが、ほぼ同時期に独立に同様の成果を挙げた医学者がいた。牧野堅である。生体に欠かせない高エネルギー燐酸化合物、ATPの構造を明らかにし、かつワトソン・クリックのDNA(核酸)の螺旋構造の発見に先じてトリプレット説を提唱したのも牧野である。ちなみに牧野博士は満州生まれで、出発は内科医で熊本大学医学部、東京慈恵会医科大学の教授を歴任された。天才学者であったが無冠の帝王であった。

トリプトファンの代謝と 酸素添加酵素

今から約30年程前、生化学会が開かれる十月になると、今年こそノーベル賞は早石修先生(京都大学教授・現名誉教授)だと、大変な噂になったことを思い出す。早石先生への期待は、その後十年程は続いていたと思う。その研究とは「酸素添加酵素」であった。呼吸によって生体に取り込まれた酸素は二つの作用が

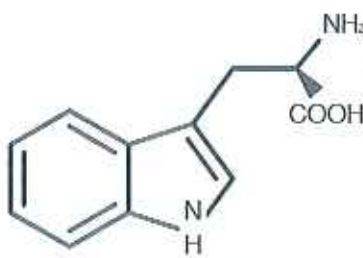
ある。一つはエネルギー産生、もう一つは様々な物質に取り込まれて、有用な別の物質を作り出すことである。後者が酸素添加酵素によるものである。50年前は生物の生体酸化は分子状の酸素が加わるのではなく、水分子の酸素原子が加わって水素がとれる、所謂脱水素反応が定説であった。ところが早石博士は空気中の酸素分子をトリプトファンに直接取り込む酵素があることを発見し、それを酸素添加酵素(オキシゲナーゼ)と命名した。つまり生体酸化には脱水素反応の他に、酸素添加反応があることを初めて証明し、教科書を塗り替えたのである。

今ではトリプトファンはオキシゲナーゼと呼ばれる。つまりトリプトファンは脱炭酸酵素などでセロトニンやメラトニンへ転換されるだけでなく、キヌレニン酸や核酸の前駆体であり、エネルギー供与に重要なフラクタルンに転換されることが分かった。生体内にはオキシゲナーゼ

の基質はトリプトファン以外にも多種あり、日常臨床ではアラキドン酸がある。おなじみのCOX1やCOX2つまりシクロオキシゲナーゼという酸素添加酵素が、アラキドン酸からプロスタグランジンへの転換を触媒している。COX2の阻害剤は消化器への副作用が少なく、かつ大腸がんの予防にもなることで、アメリカでは一世を風靡したほどである。これも50年前の早石先生の大発見の賜物である。

おわりに

ノーベル賞が全てではないものの、正当に評価されれば、来年も日本人にノーベル賞が輝くのは決して夢ではない。



福祉村病院長寿医学研究所 副所長

赤津 裕康

【海洋深層水1】

今回は「朝のことば」でもちょっと紹介させていただいた富山湾の海洋深層水のお話をいたします。

これは経済産業省主導で一年前に富山県の海洋深層水関連の研究を公募した地域イノベーション事業の一貫として組まれたものです。富山のグループに福祉村病院が入っているのはちょっとおかしいのですが、たまたまこれは発案者の富山大医学部臨床病理の常山幸一准教授にご懇意にさせていただいたことがきっかけです。私は常山先生の頼みならばといったところが正直あったのですが、実は紹介された常山先生も当初その効果の程には確信がまったくなかったようです。

しかしながら昨年度の褥瘡の洗浄液として海洋深層水を用いた治療では、一部の看護師の方々も実感しておられるように効果を見出す事ができました。特に浅い皮膚ピランにはその効果は目を見張るものがありました。この海洋水は富山湾の三〇〇m以深のところから採水し、富山の製薬会社の五州薬品㈱が加工しています。深層の海洋水は元来より表層の海洋水とは成分が違うとは言われており、特に富山湾は北アルプスの雪解け水が大量に流れ込み、また温度的にも常に2℃と安定で、これまでの調査ではミネラルや栄養塩が豊富であることが判ってきました。水産業ではすでに冷水性魚介類の養殖に適すことがわかっており汎用されています。今回の発想は沖繩の会社が深層水を使った「鮮度液」というものを販売していて、その売り文句が、この液体につけておけば魚の鮮度が長く保たれる、というものでそれなら病理に使えるのでは？ということマウスの肝臓で試してみても、思いの他良い結果を得たというのが最初の様です。

そこで、ためしに褥瘡をテーマにしては、ということ培養系は富山大薬学で、動物実験は和歌山県立医大法医学で、そして臨床は福祉村病院でと言う事でチームが組まれました。いずれの結果も驚くほどの好成绩で、我々の興味は一体何が効いているか、という事に絞られてきました。そこで今年には浜松医大分子解剖の瀬藤教授のグループに分析をお願いしたところ、生理活性を認める物質が多く含まれており、褥瘡他の創傷治療に効果があってもおかしくないと言う裏づけが取れつつあります。

褥瘡の洗浄は日本褥瘡学会のガイドライン等によれば生理食塩水水道水を用いることが推奨されています。その目的は創部を洗浄し、分泌物、壊死物質、古い外用剤を除去することにあります。今回我々の研究により、洗浄時より積極的に治療に介入していくことができるのではないかと、これにより褥瘡での洗浄概念を変えることができるのではないかと考えております。

◎長寿研トピックス

去る、十一月十二日(火)、ドイツ・ミュンスタ大学助教授、ヤイブマン先生が「脳腫瘍の遺伝子モデルとしてのショウジョウバエのさなぎの脳の研究」についてのセミナーを行われました。ヤイブマン先生は、堀映名准所長がドイツで教授をされている頃からのお知り合いで、堀先生が彼女へ神経病理学の症例の助言をされてみました。

今回は、婚約者のホールディングンク先生(同大学・助教)が京都大学の脳外科との共同研究のため来日されたので、ヤイブマン先生も堀先生に助言をいただきたいと標本を持って来日されました。

●今回セミナーを行ったヤイブマン先生(中央)とホールディングンク先生(左)





2008年11月27日講義

福祉の場面における

レクリエーションの効果

豊橋レクリエーション協会会長

阿部 弘子

レクリエーションって何？と問われたら皆さんはどうお答えになるでしょうか。右片麻痺になった母を自宅介護した十六年間の経験からレクとは生活全部であると思えました。衣食住すべての面をいろいろと工夫しながらの介護で、発想の転換を身につけ、大変と思われがちな介護が今では貴重な体験になっています。

スプーンで物をすくってもこぼれない食器、右手だけでできる手芸などなど、スポーツ感覚、仕事

感覚の自宅でのリハビリを考案しました。介護の間に笑って話せるレクの仲間やその活動があったことも、介護への心の持ち方を前向きにしました。

レクで人が変わった。

笑った・輝いた！

レクリエーションの道を歩んで四十六年になりますが、たくさんの感動とハブニングを体験してきました。昭和五十五年頃から山本病院で毎週金曜日に、認知症の方達四十数名とレクの時間を持っていたときのことです。最初は表情がなく、笑うことの少ない皆さんでしたが、半年もすると顔に表情が現れ、手遊びの時に笑顔が見られるようになりました。

クリスマス行事のことです。特殊なライトで美しい紙芝居を見てもらった後、「聖夜」を私が独りで歌い出したとき、どこからか「サーイレント・ナイト」と英語の歌が聞こえてきたのです。見ると、いつもはレクには参加せず無言で徘徊を繰り返していた方でした。私

も最後まで一緒に歌いました。忘れられない感動のひとつでした。

日頃、この方は話をしないと聞いていた病院の職員を始め、みんな驚きました。非日常的なレク・プログラムの中から生まれた行動でしたが、彼女の過去につながる思い出があったのかもしれない。

それ以来彼女は私に話しかけてきてくれ、レクの輪の中に入り、ダンスの時など跳んで跳ねて参加してくれました。

また、平成九年から続けているあかね荘の語り部活動も「みんなの声がききたい」をテーマに努力しています。字の読めない方も、言葉を発声しなかった方もゆっくり練習してきました。言葉が出たときは、一対一で練習をしてきた本人も、ボランティア、職員も心から喜びました。まだまだですが確実に成果は上がっています。

レクリエーションは生きる喜び

こんな感動や、現場の話もしながら、毎年レクの大切さを伝えるいくつかの講座を担当しています。

講座をきっかけに、笑いのある楽しい毎日を過ごしている方がたくさんいます。子ども達や、仲間、地域、福祉、介護予防のためにそれぞれの中で、やりがいと感動をもらって活動をしています。レクリエーションは、人と人とのコミュニケーションをうまく作る手段でもあります。

年齢を忘れ、ストレスを解消し、笑うことで健康も増進され、こなすばらしい生活はないでしょう。メンバーは好奇心に燃え、心身とも若いのです。自分が楽しく燃えてこそ、人も楽しく燃えるのです。ただ生きるより、うまく生きよう、うまく生きるよりすばらしく生きよう、共に歩んでいます。みんなが青春と胸を張って毎日を送っています。そして私にも若さをプレゼントしてくれます。「レクリエーションは、生きる喜び」です。



さわらび文化祭

～人にやさしく、地球にやさしく～



●花井俊典様(右)に感謝状を贈呈させて頂きました

各施設の体験企画も子どもたちを中心に人気が高く、楽しい一日となりました。

盛り上がりがありました。

また「人にやさしい福祉の仕事」のピアオ上映では、さわらび会で働く職員に入ロボットをあて、福祉の仕事の素晴らしさを改めてご理解頂ける機会となりました。

引き続き行われた福祉村公園での舞台発表は、明日香の太鼓演奏に始まり各施設の利用者の方々による発表が行われ大変

11 月3日に行われた今年のさわらび文化祭は、「人にやさしく、地球にやさしく」がテーマでした。多くの地域の方にご参加頂き、人交販やかで楽しい文化祭となりました。ご協力頂きました関係者の皆様ありがとうございました。

オープニングでは、豊橋市杉山町に貴重な土地をご寄付頂いた花井俊典様に、山本孝之理事長より感謝状を贈呈致しました。さわらび会は今後、花井様のご意志に沿って、地域の皆様のお役に立てるような施設群を創り上げていく決意であることをお伝えさせて頂きました。



障害者の外出を 考える

公共施設のバリアフリー化や福祉車輛の普及などによって、障害者の外出機会も少しずつ増えてきています。更に障害者自立支援法の中で移動支援（ガイドヘルプ）事業が制度化され、障害者の外出は一段と進んでいます。

移動支援事業の課題

障害者の外出を支える移動支援事業ですが、多くの課題も抱えています。

①ヘルパーの質の問題

障害者の外出には多くの危険が潜んでいます。以前は移動支援を行うためには、ガイドヘルパーの資格が必要でしたが、現在は介護福祉士、ホームヘルパーの資格があれば移動支援を行うことができます。そのため外出支援に関する専門性が不足しがちになっています。

②対象者の問題

対象者は、市町村において決められており、豊橋市においては

(1)屋外での移動に著しい制限のある視覚障害者（児）

(2)全身性障害者（児）（身体障

1種1級の四肢麻痺）で、重度

訪問介護の支給決定がされてい

ない者

(3)知的障害者（児）

(4)精神障害者（児）

(5)その他、市長が特に必要と認め

た者

とされており、特に身体障害者について制限があります。

③入所施設利用者は使えない

現在この移動支援事業は在宅障害者が対象であり、入所施設利用者は使えません。このままでは入所施設利用者は社会から孤立し、施設から地域生活へという流れに逆行してしまいます。入所施設の利用者の方も同じように利用出来ることを望んでいます。

誰もが住みやすい街作りを

障害者自立支援法では各市町村に

「地域自立支援協議会」を設置し、

そこで多くの分野の皆さんが集まり、課題を集積し、検討する事になっています。豊橋市でも豊橋市自立支援協議会がすでに設置されており、珠藻荘、あかね荘の支援センターが委員として参加させて頂いております。その中で移動支援にかかる前述の②③番の内容について問題提起をさせて頂き、検討を頂いた結果、豊橋市においてはこの内容について前向きに改善して行くという回答を頂いております。今後も自立支援協議会において問題提起をさせて頂きながら障害を持った方々が普通に、安心して暮らせる町作りのお手伝いをして行きたいと思っております。（江川）

◆当事者の声

今から考えると昔の外出は、私たち障害者にとって本当に出かけることが難しかったです。買い物などに出かける時、「留守番出来る？」と聞かれ「一緒に行きたい」と言つと家族の人達が、車に私達を移乗させてからトランクに車椅子を乗せて買い物に行くのですが、そのどこかで「疲れた」と一言出ていました。この言葉は障害を持ち、人の介護に頼らなくてはいけない私にとっては本当に悲しい言葉でした。

今では、車椅子のままで車に乗って買い物や映画館に出かける事が出来、駅などもバリアフリー化され、昔より随分出掛けやすいです。しかし、私達が出かける時には人のお手伝いが必須です。私達の体調や障害に常に配慮してくれる支援者がより充実し、安心して外出できる事が望みです。

（珠藻荘自治会長 稲垣ひとみ）



●さわらび大学での稲垣さんと江川施設長による講義の様子

さわらび会の 2008年を振り返る



さわらび会では、今年も「みんなの力で、みんなの幸せを」の考えのもと、ご利用者やご家族、そして地域のみなさまの幸せと安心の実現のためにさまざまな取り組みをしてきました。

今回の特集では、2008年のさわらび会の活動の一部を紹介します。

利用者、施設を支える 家族会の取り組み

利用者の皆さんにより良い支援をしていくためには、ご家族の協力は、なくてはならないものです。

第二さわらび荘では、家族会と共催して「バイキング食事会」を総会開催時に併せて実施しました。いつもと違う雰囲気の中、ホテルで食事をしているように自分で好きな物を選んでいただくことを目的に、昼食を兼ねて1階のホールにて利用者やご家族同士の交流の場として、皆さんにお食事を楽しんでいただきました。初めての試みでしたが、43家族、延べ133名の方が参加され、大盛況でした。

また、明日香の家族会では、自主製品の作成で母さん方が活躍して下さるのはもちろんですが、「甘夏みかん」の手入れ、収穫などの農作業では、お父さん方が大きな力を見せてくれます。

今回、明日香家族会から有志のお父さん方が中心となり、すばらしい物置小屋を提供していただきました。



●ご提供いただいた物置小屋

田原地内にある畑への作業効率を考えた、一緒に汗を流すお父さんならではのものです。

この様に家族会の様々なご協力なくしては、利用者の方へ本当に良い支援は出来ません。利用者・ご家族の皆様への期待に沿えるよう、今後も家族会と協力しながら、より良い支援ができるように取り組んでゆきたいと思えます。

新体系への移行

障害者自立支援法の施行に伴い、さわらび会の障害者施設も新体系へ

の移行を行いました。しろがね（平成18年）、珠藻荘（平成19年）に続き、今年4月に明日香、10月にあかね荘がそれぞれ、利用者のニーズに合った事業へと移行しました。

明日香では、将来就職を目指している方から年を取って少しずつ介護が必要になってきた方など様々な方が一緒に活動をしてきました。そこで、今回の移行で3つの事業でサービスを提供することにより、一人ひとりのニーズに合わせてサービスを選択することができるようになります。



●プラネットでの実習の様子

また、あかね荘では、入所している方のサービスマスが日中のサービスマスと夜間のサービスマスに分けることができ、るようになったため、今まで1日中あかね荘で活動されていた方が、将来の地域移行を目指して、日中は明日香を利用して、就労の訓練を行っている方もいます。また、中で活動されている方も新体系に移行したことで、散歩に出掛けたり、文化教室を楽しんだり充実した日中活動を送ることが出来ています。

地域との交流

さわらび会では、地域との交流をととても大切にしています。

さわらび荘では、認知症高齢者とその家族を地域で見守り応援する認知症サポーターの養成講座を豊橋市からの依頼により8回開催し、187名の方が受講されました。さわらび荘からはキャラパンメイト（養成指導者）として3名の職員を派遣しております。

受講者は、市役所職員、看護学生、鉄道やタクシー会社職員の方たちで

した。講座を受けた方から「これからは偏見なく認知症の方たちと関わっていきたいです」という感想が聞かれました。

若菜荘では、毎年地域の保育園や小学校の皆さんとの交流が続いています。中には、20年以上に渡る交流が続いている小学校もあります。核家族化や少子化などで子供自身が社会性や創造性を身につける機会が減少してきている時代の中で、若菜荘に来て、利用者と交流を深めることで、子どもさんの健全育成の推進に役立てばと願っております。



●認知症サポーター養成講座の様子

また、若菜荘の利用者も、福祉村内の自主的な清掃活動に加え、施設から出て、この地域の役に立ちたいとの思いから、神社清掃を定期的に行っております。私達が出来るほんの小さな事ですが、僅かでも地域に貢献できていると自負し毎月続けております。

今後も、この地域との繋がりを大事にしてゆきたいと思えます。

自治会活動

珠藻荘では、施設開所の翌年からご利用者が珠藻荘を自主的に運営するために自治会が組織されましたが、今年はその歴史で初の女性会長として、稲垣ひとみさんが就任をされました。

「一部の人達だけの意見ではなく、皆さんの意見を採り入れた運営を心がけたい」と精力的に活動されています。今年も、「障害者の思いを地域の皆さんにも伝えていきたい」ということで、市議会議員の皆さんとの朝食懇談会に出席したり、さわらび大学での講師も務められています。

更に、豊橋市より「まちづくり出前講座」の講師として依頼を受け、市内の小中学校で市の職員と共に福祉教育にも協力をされています。

珠藻荘の中だけではなく、地域全体の障害者福祉の向上を目指して、稲垣さんと自治会の活動は益々活発になっていきます。



●二川中学で講演する珠藻荘自治会長 稲垣ひとみさん(左)



[前進し続けた男]

2008年を語る。

ルノーテストドライバーからGP2参戦、そしてGP2アジアシリーズへ…。
今年大きく躍進した左近選手が今の心境を語った。

2008年を振り返る

2008年シーズンは、左近選手にとって大きな飛躍の年となった。

振り返ると今年は一NGルノーF1チームのテストドライバーとしてメンツドライバーとして招聘され、チームを支える役割を担うことから始まる。

ルノーでは年間王者に2年連続で輝いたフェルナンド・アロンソ選手、ネルソン・ピケjr選手などのトップ選手のマシン開発を担当した。

またルノーが行うロードショーにおいてはF1カーのR27に乗って公道やサーキットを疾走、世界中にF1の魅力を伝えた。

そして7月から、再びレースの舞台に躍り出ることになる。

GP2参戦

待望の舞台はGP2。名門ARRイグランプリから参戦が決まった。

左近選手が所属することになったチームは、2008年F1シリーズチャンピオンに輝いたあのルイス・ハミルトン選手も在籍したことがあり、GP2開始初年度から上位にある名門である。

ドイツGPから、シート合わせもままならないまま、全くのテスト走行なしの参戦にもかかわらず12位完走(26台中)。ハンガリーGPにおいては4位入賞。マシントラブル等に悩まされながらも、各GP2レースで幾度となく上位を脅かし、その走りのパフォーマンス、適応能力の高さに関係者も驚きを隠せなかった。

来年に向けて

GP2アジアシリーズは来春まで続く、次の戦いの舞台は、アラブ首長国連邦のドバイで12月5、6日に行われる予定である。

左近選手は、先に行われたシリーズ初戦上海GPにおいて第一レースを3位表彰台、第二レースではファステストラップをたたき出し



SAKON

左近選手。来年も熱いレースを魅せてくれるに違いない。

GP2でのシリーズチャンピオンを目指して、好スタートを切った

とコメントしている。

オンを捕るべくチーム一丸となって最大限努力していきたい。」

ンの皆さんに感謝したい。目標であるシリーズチャンピ

オンの皆さんに感謝したい。目標であるシリーズチャンピ

オンの皆さんに感謝したい。目標であるシリーズチャンピ

オンの皆さんに感謝したい。目標であるシリーズチャンピ

オンの皆さんに感謝したい。目標であるシリーズチャンピ

オンの皆さんに感謝したい。目標であるシリーズチャンピ

大きい。

者から寄せられる期待は

高さに、レース関係

フォーマンズの

た。そのパ

俳句 浪 漫

直筆の書で
季節を彩る

シユゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之



境内の秋深まりて菊揃い

晩秋十月ともなると、名だたる神社の境内には全国から手塩にかけた鉢植えの菊の花が奉納される。それを想いつつ、今年初詣でした明治神宮にふと足が向いた。案の定奉納された数々の月情込めて削った鉢植えの菊の花に接することが出来た。初詣での雑踏とは違って、周囲の人たちも気づかずに静かに供に敬かな境内の雰囲気を楽しみ出された。都会の真ん中であつて、紅葉した巨木は菊の花と相まって日本の情緒を醸し出していた。ここ数十年で変化した社会環境に抗するが如く、鉢植えの菊花は旧来のたたずまいを踏襲し、凛とした姿を誇示していた。

境内の
秋深まりて
菊揃い



さわらび日記

（H20）10・16～11・15

■福社村病院 シュゲム

10月16日 H
病棟幹部会、迎撃長出席
新城市社会福祉協議会主催の認知症予防講演会にて伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
山頭聖金に理事長参加
山頭福祉会が福祉村の見学
市公衆衛生にて「高齢者の感染症」について院長講演
大阪日経研主催の公開セミナーにて伊和弘之副院長が「認知症ケアマスター」について講演
22日 H H H
さわらび大学「実証証について」三浦野依健助教授にて松山先生講演
24日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
26日 H
認知症の人と家族の会「三重支部主催の吉野町認知症の講演会にて伊和弘之副院長が「認知症の人への正しい接し方と対応」について講演
野依健助教授にて松山先生講演
28日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
30日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
31日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
7日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月3日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
5日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月10日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月11日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月12日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月13日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月14日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月15日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演

■さわらび荘

10月16日 H
介護認定審査会（施設長、市役所）
介護福祉ネットワーク（二階プロツク連絡会、浅見、木下、山本）
全国若狭地域ケアセミナー（白井、東京、18日）
地域連携支援センター業務打合せ会（松下、浅見、木下、中役所）
クアパネ部会（白井、中役所）

■第二さわらび荘・カサデローザ

11月4日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月5日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月6日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月7日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月8日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月9日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月10日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月11日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月12日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月13日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月14日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月15日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月16日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月17日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月18日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月19日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月20日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月21日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月22日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月23日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月24日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月25日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月26日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月27日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月28日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月29日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月30日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月1日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月2日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月3日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月4日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月5日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月6日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月7日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月8日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月9日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月10日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月11日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月12日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月13日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月14日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月15日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月16日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月17日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月18日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月19日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月20日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月21日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月22日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月23日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月24日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月25日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月26日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月27日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月28日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月29日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月30日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月31日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演

■さわらび荘

11月4日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月5日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月6日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月7日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月8日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月9日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月10日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月11日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月12日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月13日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月14日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月15日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月16日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月17日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月18日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月19日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月20日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月21日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月22日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月23日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月24日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月25日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月26日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月27日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月28日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月29日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
11月30日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月1日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月2日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月3日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月4日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月5日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月6日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月7日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月8日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月9日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月10日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月11日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月12日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月13日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月14日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月15日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月16日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月17日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月18日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月19日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月20日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月21日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月22日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月23日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月24日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月25日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月26日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月27日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月28日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月29日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月30日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演
12月31日 H
伊和弘之副院長が「認知症の予防」について講演

高齢者グループホーム整備推進

さわらび会高齢者グループホーム(2ユニット定員18名)は、十一月七日に起工式が行われ、交通至便で閑静な住宅地である豊橋中央地域(平川木町一丁目)に来年二月の開設を目指して、整備が推進されています。

木造で明るい家庭的な雰囲気、生活空間は、ご利用の皆様のお心を和ませ、専門スタッフが快適で安全な介護サービスを提供させていただきます。



●11月7日に執り行われた起工式の様子

ご利用及びスタッフ募集等についてのお問い合わせ先

社会福祉法人さわらび会本部事務局
(担当 土井まで)
☎0532-54-3501



1413 00	12 00	11107 0000	6 HH	531 HHH	3029272220 HHHHHHH	10 11	11 00	10 05	11 04	3029 00	28 00	23 00	222120 HHH	10 17	14 00	13 00	11 00	7 00	5 00
1413 00	12 00	11107 0000	6 HH	531 HHH	3029272220 HHHHHHH	10 11	11 00	10 05	11 04	3029 00	28 00	23 00	222120 HHH	10 17	14 00	13 00	11 00	7 00	5 00
1413 00	12 00	11107 0000	6 HH	531 HHH	3029272220 HHHHHHH	10 11	11 00	10 05	11 04	3029 00	28 00	23 00	222120 HHH	10 17	14 00	13 00	11 00	7 00	5 00
1413 00	12 00	11107 0000	6 HH	531 HHH	3029272220 HHHHHHH	10 11	11 00	10 05	11 04	3029 00	28 00	23 00	222120 HHH	10 17	14 00	13 00	11 00	7 00	5 00



福祉村病院 副院長
伊莉 弘之

第三十七番石本寺から、四国最南端の足摺岬に

ある第三十八番札所躰陀山金剛福寺へ。この間九

〇キロ、徒歩で二八時間、車で二時間三〇分。

私たちは行程の途中にある宿から出発したが、平成一五年八月八日は朝から雨と風が強い。午前中に台風一八号が四国の足摺岬付近に上陸するらしい。「危ないから今日は休むかね」と私。「せっかく来たのだから、まわりましょう」と母。

宿から金剛福寺まで約四〇キロ。一時間もあれば着く距離だ。しかし、世の中にこんなことがあるものか。車の前方の視界は時速一〇キロ程度で走っても、ワイパーをいくら速くしても、二メートル前方しか見えない。雨が激しく車に当たり、大声で話さないと聞こえない。なぜか雨漏りするのではないかと心配になった。

三時間かかって寺の駐車場に着いた。しかし、雨と風が強く、車の扉を開ける勇気が出ない。とても外を歩ける状況ではない。しばらく待つこと

三〇分。雨

と風が少し

だけ弱まっ

た。勇気を

出して外に

出たが、傘

は喪返り、

まっすぐ歩

けない。中

二の娘は転

倒した。も

のが飛んで

きて怪我をするように恐ろしい。生きて帰れる

のだろうか」ふつと思った。

本堂の前のお札を入れる箱も横に倒してあり、お札を入れられない。「箱を起こすの手伝って」と母。重い箱が少しだけ上がったところからお札をこじ入れた。社務所には人が一人いたが、他にはひとりも参拝者はいない。看板やごみが道の上を横に飛んでいくので、風を避けられる場所、なんとか写真を二枚だけ撮った。「参拝者は私たちだけだったと思ったのにお参りしていた人がいたのだね」と母。写真を撮った私は、他の参拝者がいるかどうかを気にする余裕はなかった。



さわらび

ホットスナップ



11月16日(日)にさわらび会職員との交流の一環として、ソフトバレーボール大会が行われました。優勝は、前回に引き続き、ブループラネット(第二さわらび荘)でした。



「自分のできることでみんなの役立ちたい」と毎日落葉の清掃をしてきたさる若菜荘の山田浅吉さん。

さわらび会後援会寄附ご芳名

平成20年10月15日～11月14日

碧南市大浜上町1-36	碧南マツダ 田中梅夫氏	10,000円
市内牧野町90	小松ウメ氏	5,000円
市内東雲町47	梅村敏夫氏	16,000円
市内入舟町21	勝三忠薬品	30,000円
豊橋みなとライオンズクラブ・井上食品・田京豆腐店 野依校区自治会・中神尚人氏 (以上文化祭にて)		90,000円
市内大清水町宇富士見804-1	勝松谷建設	10,000円
市内小池町36-1	共和印刷機	5,000円
市内高塚町神田68	田京敏明氏	5,000円
市内中岩田三丁目11-3	白井長治氏	1,000円
市内弥生町字西豊和9-9	林 昭氏	10,000円
市内堂町30	味中野新松商店	10,000円
市内瓜郷町前川50-1	鈴木弘生氏	10,000円
市内東新町314	勝田医工新和	10,000円
市内間屋町15-5	勝スズケン	10,000円
市内東田町154	勝竹田商店	10,000円
市内飯村北二丁目26-16	常滝川器械店	10,000円
市内東臨三丁目1-17	森田南利子氏	10,000円
市内白河町100	中部ガス機	10,000円
市内神野埠頭町2	神野臨海機	10,000円
新城市南畑74	光川屋機	10,000円
市内牛川通五丁目11-11	なかの呉服店	10,000円

市内野依町山中19-14	福祉村病院職員有志	4,000円
	さわらび会共同行事	473,762円
	匿名希望氏	10,000円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。
計 **779,762円**
現在までにご寄附いただきました金額は
822,731,172円

インド福祉村協会寄附ご芳名

平成20年10月11日～11月10日

名古屋市中央区新栄1-7-12	東海労働金庫	3,500円
名古屋市昭和区山花町50	医療法人 生方会 理事長 酒井宏氏	50,000円
静岡県浜松市北区根洗町1536-1	株式会社アクティシステム	300,000円
静岡県浜松市北区根洗町1536-1	山下昭二氏	5,000円
	匿名希望氏	5,000円

計 **363,500円**

募金方法(インド福祉村)

- 振込先 郵便局 ゆうちょ銀行・振替口座
口座番号00830-2-65008 加入者名 インド福祉村協会
- 連絡先 軽費老人ホーム若菜荘 ☎0532-48-1138まで

* お礼コーナー * ありがとうございます

※印は豊橋善意銀行を通して

- ▼日本レコード協会様 CD研賞(珠翠江) ▼山光音楽様 りんご楽団※(各協賛)
- ▼山本英雄様 花の苗・野菜高畑(しろかみ)



福祉村障害福祉サービス事業所しるがね
施設長 石黒 稔

毎年お正月に、家族で北陸の金沢へ帰省します。今年は夏に兄より顔を出すように言われ、久々に夏の帰省をしました。ゲリラ豪雨で五十数年ぶりに市内を流れる浅野川の氾濫があった二週間ほど後です。浅野川周辺にはまだその爪痕が残っており、川縁は美しい芝生の散歩道だったものが、泥で埋まり、上下より五十センチ程のフェンスにも流れてきたものが絡まっている状態でした。浅野川はおとなしい川だとの印象があったため、その凶変ぶりには驚かされます。

家から歩いて十分程の所にテレビでもよくみかける「ひがし茶屋街」があります。朝ひとりで一時間ほど、その界限を散歩しました。多くの観光客が来ており、昔の素朴なイメージから観光地化された様子に驚かされます。家から浅野川沿いに一時間ほど、散歩する中で四軒の銭湯が残っているのにも驚かされました。高齢者向けに銭湯券が配られているとも聞きました。いい

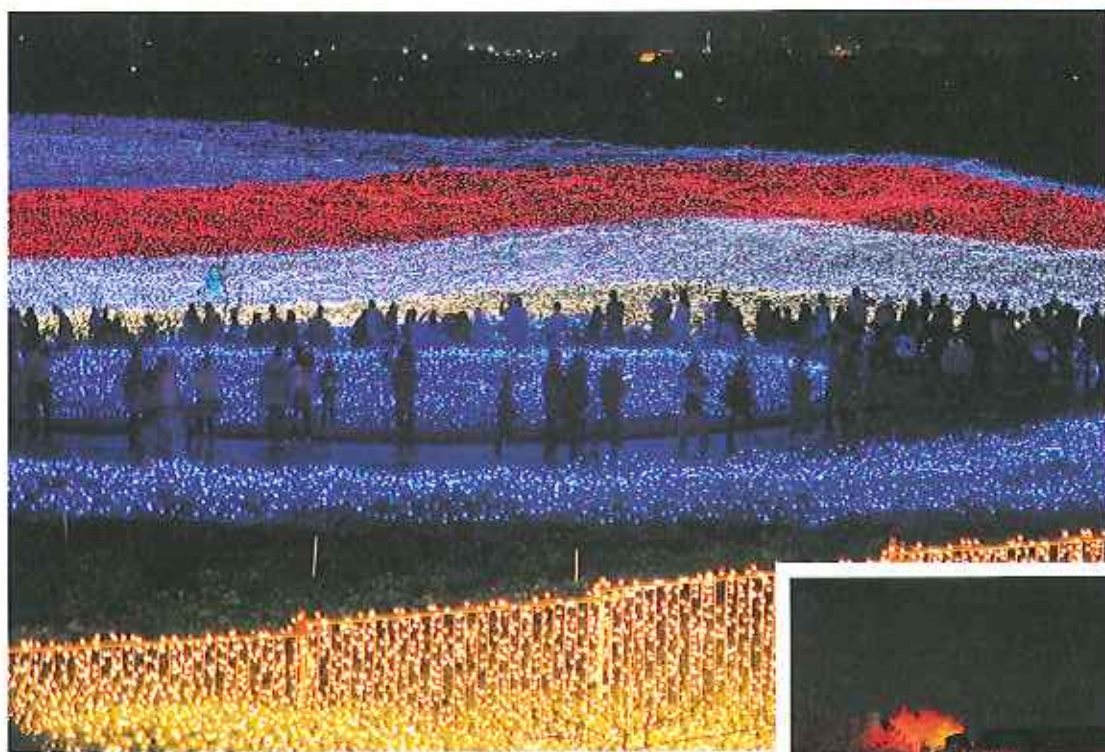
社交場になっていくようです。金沢市内をレトロなボンネットバスが走り、他にも市内の狭い道路を走る小型バス(金沢ふらっとバス)が三ルート、市民や観光客の足になっていきます。歌人や文化人の記念碑だけを回っても、一日以上、美術館、博物館、工芸館、武家屋敷跡、お寺など回ると数日はかかってしまうくらいです。三十五年前に私が金沢にいた頃には想像もできないほどの変貌ぶりです。古いものを抑り起こして見事に観光化しているなど感心しました。病院や介護施設などの多いのにも驚かされます。遠く離れていて、久しぶりにもどるとその変化に目を見張ります。

先日豊橋の市長選で当選した佐原市長が三十五年ぶりに豊橋にもどってきてその停滞ぶりに警鐘をなげかけていたのを思い出します。地元にいると感じない変化、多くの地方を回ってきたからこそ感じる豊橋の現状を訴える話に頷いてしまいました。金沢と豊橋は以前は四万人ほどの違いでした。そんなに差はなかったように思います。県庁所在地であるかないかの違いはありますが、その変化のスピードの違いには驚かされます。産業も含めて古いものを生かした新しい活気のある豊橋が創られていくことを、新しい市長に期待したいと、あらためて感じます。

今回は、福祉村簡易郵便局局長江澤 幸隆さんです。



冬を彩る



●なばなの里 ウィンターイルミネーション



みんなの力でみんなの幸せ

2008年12月1日発行 早版 第428号

(昭和62年2月21日第二種郵便物認可)

充実した医療と福祉

- 特別支援老人ホーム さわらび荘
☎(0532) 54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町72
- 特別支援老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウスカサ デ・ローザ
☎(0532) 37-1209
- 軽費老人ホーム 若葉荘
☎(0532) 48-1138
- 障害者支援施設 珠蔭荘
☎(0532) 47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘
☎(0532) 48-2825
- 福祉村病院
☎(0532) 46-7511
- 福祉村サービス事業所 明日香
☎(0532) 46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しるがね
☎(0532) 48-1032
- 福祉コンビニ(東豊町)
☎(0532) 69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
☎(0532) 38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
☎(0531) 24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎(0532) 46-7501
- 田原市障害者生活支援センター(市委託)
☎(0531) 45-3828



社会福祉法人 さわらび会

理事長 山本 孝之

編集主任: 武田和敏 印刷: 共和印刷所 定価: 100円

■表紙: 新城市四谷地区千枚田

編集後記

早いもので、今年も残すところ、あと2ヶ月となりました。さわらび会では今年も、医療と福祉を通じ、地域のみなさまの安心と安全を守るため、さまざまな取り組みをしてきました。さわらび誌では、そうした活動の一部をご紹介させていただきましたが、特に今年は、読者のみなさんからの声を、より誌面に反映させたいとの思いから、アンケートをさせていただきました。多くの方から激励のことがやアイデアをいただきましたこと、編集スタッフ一同大変感謝しております。私たちは、みなさまからのご意見を財産として、誰からも愛されるさわらびをめざし、感謝と謙虚な気持ちをお忘れずに、がんばってまいります。

(武田)